

## 緊急人道支援学会 ラウンドテーブルセッション:

### セッション名 (Title of the Session)

人道行動における子どもの保護の最低基準(CPMS)」の普及と実践: NGO 間連携による波及効果と今後の展望

- 要旨(400-800字:企画の背景、主な論点を含めてください。  
本ラウンドテーブルでは、人道支援における国際基準の1つである「子どもの保護の最低基準(CPMS)」の日本国内での普及を目指す「CPMS 推進ネットワーク」の活動と、各参画団体による実践報告を行う。紛争や災害下で子どもを保護するためには、共通言語としての国際基準の理解が不可欠である。まず座長の原田より、ネットワーク設立の背景と活動を紹介する。続いて NGO 所属の4名が、それぞれの所属 NGO における CPMS 導入の具体的な取り組みと、それが支援現場や組織体制に与えた波及効果について報告、原田からアカデミアの立場での取り組みを報告する。後半のディスカッションでは、基準を「知っている」段階から「現場で活用する」段階へ移行するための課題を整理し、日本の人道支援コミュニティ全体でどのように子どもの安全とウェルビーイングを担保していくべきか、参加者と共に展望を議論したい。

- 発表者の発表内容・略歴、およびファシリテーター、コメンテーターの略歴  
ファシリテーター

原田奈穂子 岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 聖路加看護大学(看護学士)、University of Pennsylvania(看護学修士)、Boston College(看護学博士)スフィア基準、CPMS、INEE、PFA(WHO 版、子どものための PFA)トレーナー。日本 DMAT、岡山県 DPAT 隊員、宮崎県・群馬県 DWAT アドバイザー。

#### コメンテーター

宮脇麻奈 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン海外事業部子どもの保護エキスパート。上智大学(法学士)、コロンビア大学(国際関係修士)。ケニア干ばつ被災者支援、シリア難民支援、イエメン国内避難民支援、緊急下の子どもの保護に従事する NGO・政府職員の能力強化事業等に従事。CPMS、子どものための PFA トレーナー。

五十嵐豪 CWS Japan のディレクターとして海外支援事業全般の統括責任者。20 年近く人道・開発支援に関わっており、東日本大震災やハイチ、フィリピン、パキスタン、ケニアなど国内外の災害支援や、アフガニスタンやシリア、ソマリア、南スーダンからの難民支援等に従事してきた。また、スフィアや CPMS など複数の「人道支援の国際基準」のトレーナー資格を有し、研修や講演などを通じ支援人材の育成に関わる。日本語版スフィアや JVOAD 多様性配慮ガイドライン、PSEAH ハンドブックなど人道支援に関するガイドラインやマニュアルの翻訳監修や作成などにも参加。

中村夕貴 ワールド・ビジョン・ジャパン 人道・開発事業第 2 課 課長。南スーダン、スーダン、アフガニスタン、シリア、ミャンマーの長期にわたる人道支援、特に教育・子どもの保護分野での事業、また日本国内でも熊本地震、能登半島地震(石川県)での緊急人道支援に従事。CPMS、PFA(WHO 版、子どものための PFA)トレーナー。

山形文 プラン・インターナショナル・ジャパンプログラム部シニアオフィサー。ウクライナ避難民保護(ルーマニア、ウクライナ)、台風被災者支援(ベトナム、フィリピンなど)、能登半島地震(石川県)、令和元年台風(長野)など国内外での緊急人道支援、少数民族の初等教育(グアテマラ)他、開発支援に従事。CPMS 推進ネットワーク、CFS 協議会メンバー。

原田奈穂子 アカデミア、および災害医療支援における CPMS の活用、および行政との連携例 他同上

■ セッションの流れ 90min

5分 主旨および登壇者紹介

10分 CPMS の概要説明・CPMS ネットワークの活動変遷(原田)

10分 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの取り組み(宮脇)

10分 CWS ジャパンの取り組み(五十嵐)

10分 ワールド・ビジョン・ジャパンの取り組み(中村)

10分 プラン・インターナショナル・ジャパンの取り組み(山形)

10分 アカデミアとしての取り組み・行政との連携(原田)

25分 ディスカッション

■ その他

(2ページ以内に収めてください。Please keep it within 2 pages)